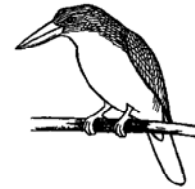


(公財)山階鳥類研究所
 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115
 電話：04-7182-1101 Fax：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



(お知らせ)

聟島に移送したアホウドリのヒナ全羽の巣立ちについて

<環境省自然環境局 同時発表>

平成24年5月25日(金)
 公益財団法人山階鳥類研究所

むこじま

小笠原群島聟島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業として、今年の2月11日に伊豆諸島鳥島から聟島までヘリコプターで移送したアホウドリのヒナ15羽(雄5羽、雌9羽、不明1羽。このうち雄1羽は飼育中に死亡)が、5月25日までに聟島の飼育サイトより巣立ちましたので、お知らせいたします。

移送したヒナは移送後約3か月間、(公財)山階鳥類研究所の研究チームからの給餌を受け、成長してきました。5月15日に1羽が巣立った後、他のヒナも順に巣立ちを迎え、25日に最後の5羽が巣立ちました。

巣立ち後のヒナは、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸、アメリカ西海岸まで渡っていくものと予想されます。

今回巣立ったヒナ14羽のうち、6羽に衛星発信器を装着していますので、今後の巣立ち後の行動についても明らかとなる予定です。

また、聟島を巣立ったヒナの帰還が確認された個体数が6羽であったことも、併せてお知らせします。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているものです。

●ヒナの巣立ちについて

巣立ち日	巣立ち羽数	♂♀	備考(発信器の有無)
5月15日	1羽	メス1	
5月18日	1羽	メス1	
5月23日	7羽	オス2、メス4 不明1	(発信器装着3羽： オス2、メス1)
5月25日	5羽	オス2、メス3	(発信器装着3羽： オス2、メス1)

計14羽

(発信器装着:計6羽)

●聟島巣立ち個体の今シーズンの帰還状況について

帰還確認日	個体番号	♂♀	年齢(移送年=聟島巣立ち年)	備考
H23.12.5	Y01	オス	4歳(平成20年)	NHKが設置したカメラにより確認 昨年最初に帰還を確認した個体
H24.4.9	Y05	メス	4歳(平成20年)	
H24.1.29	Y11	メス	3歳(平成21年)	NHKが設置したカメラにより確認
H24.3.1	Y27	オス	3歳(平成21年)	
H24.4.15	Y15	メス	3歳(平成21年)	
H24.4.16	Y21	オス	3歳(平成21年)	

計6羽

●上記のほか聳島で確認された個体の状況について

確認日	個体番号	♂♀	年齢	備考
H23. 12. 24	—	不明	不明 1(亜成鳥)	NHK が設置したカメラにより確認 足環がついていないことを確認
H23. 12. 31	—	不明	不明 2(亜成鳥)	NHK が設置したカメラにより確認 足環装着を確認（足環の色により、聳島 へ移送した個体でないことが判明）
H24. 1. 15	—	不明	不明 3(亜成鳥)	NHK が設置したカメラにより確認 足環がついていないことを確認

計 3 羽

※Y01 と不明 1 の個体は、昨年 12 月から島内の同じ場所に定着しており、求愛ダンスをしていることが確認されています。

※繁殖可能な年齢は最も若くて 5 歳で、平均では 7 歳頃とされています。

●ヒナの写真（(公財)山階鳥類研究所提供）



飼育サイトのヒナとデコイ(5月8日)



羽ばたきの練習をするヒナ(5月8日)



羽ばたくヒナ (5月6日)



給餌される巣立ち近いヒナ (5月10日)

※画像のデジタルデータをご希望の方は下記までご連絡ください。

この件についての連絡先

(公財)山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山 115)
事務局広報主任 平岡考
電話：04-7182-1101 (または 04-7182-1104) Fax:04-7182-1106

●これまでの経過

<平成19年>

3月～6月 近縁種のクロアシアホウドリによる飼育試験を実施。

<平成20年>

2月19日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ10羽（雄4 飼育サイトのヒナとデコイ（5月8日）
て、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月19日～25日 ヒナの巣立ち

5月～9月 人工衛星追跡を実施し、追跡できた4羽がベーリング海へ到達。
聳島の飼育ヒナと鳥島の野生ヒナの巣立ち後の行動に大きな違いは見られなかった。

<平成21年>

2月5日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄10羽、雌5羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月11日～25日 ヒナの巣立ち

<平成22年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄11羽、雌4羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

5月18日～29日 ヒナの巣立ち

<平成23年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄8羽、雌7羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

2月10日 平成20年に巣立ちした個体（3歳、雄）の聳島への帰還を確認。

5月12日～25日 ヒナの巣立ち

※平成23年5月25日までに、聳島を巣立った個体7羽の帰還を確認。

12月5日 平成20年に巣立ちした個体（4歳、雄）の聳島への帰還を確認。
（2月10日に帰還した個体が再び帰還した。）

<平成24年>

2月11日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽（雄5羽、雌9羽、
不明1羽）をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ （山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。）

3月8日 移送したヒナ1羽（雄）の死亡を確認

5月15日～25日 ヒナの巣立ち

※平成24年5月25日まで、聳島を巣立った個体6羽の帰還を確認。